

桜島の火山活動解説資料

福岡管区气象台
地域火山監視・警報センター
鹿児島地方气象台

＜噴火警戒レベル3（入山規制）が継続＞

桜島では、本日（8日）実施した現地調査で、4日02時59分の南岳山頂火口で発生した爆発によるとみられる大きな噴石を、火口の南南西約3kmの地点で確認しました。現在のところ、噴火活動がさらに活発化する兆候は認められません。

【防災上の警戒事項等】

南岳山頂火口及び昭和火口から概ね2kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。

風下側では火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るため注意してください。爆発に伴う大きな空振によって窓ガラスが割れるなどのおそれがあるため注意してください。なお、今後の降灰状況次第では、降雨時に土石流が発生する可能性がありますので留意してください。

平成28年2月5日に火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）を発表しました。その後、警報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・噴煙など表面現象の状況（図1、図2）

南岳山頂火口では、6月4日02時59分に爆発が発生し、監視カメラによる観測で弾道を描いて飛散する大きな噴石が南岳山頂火口から2km近くまで飛散しているのを確認していました。

本日（8日）の鹿児島市東桜島町で実施した現地調査で、4日02時59分に発生した爆発によるとみられる大きな噴石を、火口より南南西約3kmの地点で確認しました。噴石による落下痕は直径約6m、深さ約2mでした。

大きな噴石が火口から3kmを超えて確認されたのは、1986年11月23日以来です。

5日以降、島内に設置している傾斜計及び伸縮計では山体の隆起・膨張と考えられる変化は見られておらず、現在のところ、噴火活動がさらに活発化する兆候は認められません。

この火山活動解説資料は福岡管区气象台ホームページ (<https://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>) や気象庁ホームページ (https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php) でも閲覧することができます。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

(<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>)

この資料は気象庁のほか、鹿児島市及び国土地理院のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ(標高)』『基盤地図情報』『基盤地図情報(数値標高モデル)』『数値地図25000(行政界・海岸線)』を使用しています(承認番号:平29情使、第798号)。



図1 本日（8日）の現地調査で大きな噴石による落下痕を確認した地点

4日02時59分に発生した爆発によるとみられる大きな噴石を火口より南南西約3kmの地点（鹿児島市東桜島町）で確認しました。



図2-1 大きな噴石による落下痕の状況（写真提供：鹿児島市）

落下痕の大きさは、直径約6m、深さ約2mでした。



図 2-2 落下痕の周辺で確認した大きな噴石の破片（写真提供：鹿児島市）